

大阪府立たまがわ高等支援学校 平成 30 年度 第 1 回 学校運営協議会の概要

- [1] 日時 平成 30 年 7 月 25 日（水） 午後 5 時 15 分～6 時 15 分
- [2] 場所 大阪府立たまがわ高等支援学校 会議室
- [3] 出席 協議会委員 5 名 事務局員 6 名
- [4] 内容
 - 協議会委員自己紹介及び事務局員紹介
 - 1 開会の挨拶
 - 2 事務局から説明
 - (1) 学校運営協議会について
 - (2) 平成 29 年度学校経営計画及び学校評価について
 - (3) 平成 30 年度学校経営計画及び学校評価について
 - (4) その他
 - 3 協議
 - 4 閉会の挨拶
 - 5 諸連絡

議事録（抄録）

《議事録中、●は協議会委員です》

○協議会委員自己紹介及び事務局員紹介（委員等の詳細は本ホームページ内別掲）

1 開会の挨拶（校長）

本日はご参加ありがとうございます。前任の校長から 4 月に校長職を引き継ぎました。今日は現時点での本校の様子をお伝えいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：今年度の協議会会長は、米澤様にお願いいたします。 → 一同了承。

2 事務局から説明

(1) 学校運営協議会について（校長）

府立学校では「学校協議会」で校長の学校経営計画を説明してきた。これまでは府立学校条例だったけれど、これからは学校運営協議会の設置に関する規則にそって実施する。「コミュニティースクール」をめざす、ということになり、本当の意味で開かれた学校運営にしていきたい。

委員構成は大きく変わっていない。変更点として、学校経営計画について承認をいただくことや、学校長を通して教育庁に職員の任用に関して意見を述べるができる（学校の状況を考えて、ある分野の職員を増やせないか、といったようなことなどをあげることができる）。ご意見をいただいて可能な限り実行する。早期にコミュニティースクールの形に近づけていきたい。

委員の任期は 2 年だが、年度末には相談に応じたい。協議会は年に 3 回実施する。次は 12 月、最後は 3 月の予定。

（２）平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価について（校長）

めざす学校像、中期的目標について。外部への発信と関係機関との積極的な連携は、本校が大切にしていること。教育目標「就労」については、より効果的なマッチング、働き続けるための支援をおこなってきた。また、たまがわは創立 13 年を迎え、大阪府の高等支援学校が 5 校体制になり、全ての学校が卒業生を出すことになる。

自己評価について。さまざまなところからの意見を聞いて校長が評価をしている。○、△、◎でつけている。評価指標はできるだけ具体的にだすように、という指示があるが、数値だけが成果ではないと思っている。校長として、4 月から教職員、子どもたちの様子を見ているが、まだまだ課題はあると感じている。地域の方に来てもらって喜んでもらえる野菜販売、会社の見学会、など、地域に支えられての学校である。

（３）平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価（校長）

30 年度の内容についても、前任の天野校長が前年度に作成している。わかりやすく文言等を少し訂正したが、私の考える方針と合致し、継続性も大切であると考えてるので、基本的には引き継いでいる。

めざす学校像については、趣旨を変えずに表現を少し変えた。「連携と発信」、「選択と実現」、これについては特に重要視している。就労はマッチングが大切で、単なる希望だけではうまくいかない。粘り強い指導をおこなっていく。「検証と改善」を常におこなっていくことも大切だと考えている。

中期目標について。1 の（２）でスポーツ交流をうたっている。今年度も「交流及び共同学習推進」のモデル校で、他校の生徒とスポーツを通して交流をする。1 の（３）「たまがわランド」は富永校長の時代に府に認められた計画。野菜販売、春日幼稚園との交流で枝豆の収穫などをおこなう。他にバックヤードでのランチ販売などもある。たまがわフェスティバルでは文化の部にたくさんの人に来ていただいている。教育活動の継続性のある収穫である。働き方改革の波は学校現場にも来ている。今年度 8 月 13 日～15 日は学校休業日とする。教育庁の指示で、試行実施。たいへんありがたい面もあるが、教育職は何かをなくせばいいというものではないので、丁寧な指導支援を大切にしてワークライフバランスに努めていきたい。

評価指標について。校長ブログは年間 100 回を目標にしている。回数ではなく中身だと思っている。伝えるべきことはけっこうある。T-マガジンも昨年度から好評。高等支援の本質をわかってもらいたいと思って作っている。

就労 100%を目指す学校なので、就労には力を入れたい。ただし、進路先については単なるあてはめにならないようにしていきたい。生徒の多様性をみるとかなり広がりがある。多様性が就労率の低下になるわけではないが、これまで通りの画一的なものではなくなっている。

本校では教員が学ぶ機会は意欲があればたくさんある。次期学習指導要領について、発達の支援について、などの題目で、多様な校内研修を実施している。

（４）その他

特になし

3 協議

司会：議事進行を米澤様にお願いいたします。

司会：29年度の報告、30年度の計画について校長先生からご説明があった。今回は最初の協議会なので、みなさまから建設的なご意見ご感想をいただきたい。

●委員：

3年生の生徒の父親です。3年間保護者の立場で学校を見ている。学校の中に関することについては詳しくはないが、入学前から説明会などに参加して、もっとこういう学校が大阪だけではなく全国にどんどん増えてほしい、子どもを育てる中で、障がい者が社会にお世話になるだけではなく、納税して社会に貢献できる人にしたいと思っている。

たまがわランドなど、地域の方に学校で何が起きているか知っていただきたい、と前の前の校長先生が語っておられた。子どもが、文化祭でラーメンを1食 200 円以内で売れるレシピを作りたいという考えを持っていた、と話していた。こんな建設的な目標を持たせていただいていることに感謝する。

卒業生のことについて。卒業生の保護者からのお話を聞かせてもらう機会がある。6名のお話だけだけれど、昼休みの過ごし方がどうしていいかわからない、ということが印象に残った。コミュニケーションに関しては、家庭によるところも多いし個人の特性によるものも大きいが、離職率にもからんでくるのかな、と。昼休みに楽しくお話ができる同僚があれば、がんばる動機付けにもなるのか、と思う。めいっばいのスケジュールではあるが、クラスメイトとのコミュニケーション力を高めてもらえるような指導もあれば。

●委員：

10 周年のときにパネルディスカッションに出させてもらった。弊社では 2009 年から新規採用を続けている。たまがわの卒業生も 7 名。たまがわの卒業生は仕事への意欲は高い。基本的な生活習慣はしっかりできている。入学式も参列したが、70 名の新入生が一糸乱れず行動できている。すごいな、と思った。このような優秀な生徒が 3 年間で就労意欲を持つことができるようになることはすごい。他の高等支援 4 校が「めざせたまがわ」というのもわかる。

マッチングはこの 4 年で状況が変わったと感じる。3年生の「就労に向けての実習」というのが前面に出ているが、以前は 1, 2 年生の授業の一環として実習を受け入れしていた。マッチングとしてはそれもいいのでは。1 年生でも就労を考えた受け入れのカリキュラムを考えていきたい。

学校の体制が変わっていくことに合わせて企業も変わっていく。法定雇用率が変わってきている。東京からの特例子会社も増えている。社会情勢が変わってきているので、このような場で情報共有させてもらいながら、障がいのある人が社会に出ることのお手伝いができれば、と思う。

●委員：

たまがわは開校から13年目、理念もしっかりとして、実績もある。生徒の自己選択の大切さを実感している。自分で決める経験をたくさんしてもらうようにしている。大阪市職業リハビリテーションセンターでも、「企画旅行」という取り組みで、3泊4日北海道、飛行機とホテルだけは決まっていて、他はグループごとに話し合いをして決める、という内容。その中で、コミュニケーションを取る力や自分の考えを他の人に伝える、ということをやっている。今までは親が決めることが多かった人も少しずつ自分で考えるようにしている。

センターは開所から33年。たまがわ開校からの13年間でも雇用状況が激変している。たまがわ創立時は実習先を確保するのめたいへんだったが、雇用率も上がり、求人が増えている。就労先の選択肢は広がっているが、だからこそのように準備を整えるか、マッチングがとても大切。きっちり準備ができないままだと離職につながる。一般の大学生でも就労3年後に3割の離職だそうだが、就労支援を専門にしているものとしてはたまがわの離職10%は多い。せめて5%、センターでも50人就職して2人ぐらいの離職である。離職は仕事のことだけではなく、生活面も原因になるので、必要な人にどんな支援体制を考えるか、が大切。

●委員：

自治会とはボランティア団体のようなもの。稲葉地区でも1700世帯のうち65歳以上は1050人とずいぶん高齢化してきた。そのため高齢化に対応した地域コミュニティーを作ることが目標。昨年度は毎月1回社会福祉協議会からの提案でゲームなど実施して、一人暮らしのお年寄りに集まってもらった。

自治会長として小学校の卒業式にも出席する。先生の仕事はたいへんだし立派。小学校1年生の入学式で子どもたちの足がぶらぶらしていたのが、6年生の卒業式では劇場的なかたちで大きな声で演技している。この6年間での成長は先生という仕事のおかげ。午後5時に仕事が終わっても何かあれば常に対応している。

この学校の評価は良い。近隣でも評判。来年のラグビーワールドカップもあるので、これから何か取り組みができれば。今年度からクリーンアップ活動も始まった。公園、神社など。玉川小学校の子どもと先生も参加している。支援学校も参加してもらえれば。

●委員：

今日の午前中、幼稚園の先生方への助言をしてきた。オープン保育、子どもたちが主体的、自主的に遊ぶこと、などの取り組みをしている。発達支援で大切なのは目標設定。たまがわは就労という明確な目標を設定することで、1年生から指導していることを評価されている。目標を達成するためには場が必要。学校だけではなく地域を巻き込んで場をつくる。地域とつながることは大切。この場と目的をつなぐのは子どもの意欲。意欲を育むためには自己選択力、自己決定、これがある子どもは心が折れずに成長する。協議会の意見を基に意欲を育むための自己決定の仕組みを作っていきたい。たまがわは、先生方が子どもたちに寄り添っている、と感じている。

4 閉会の挨拶（校長）

本日はありがとうございました。今回は顔合わせ、次回からは担当教員が直接お話しをして意見交換をしていきたい。また何かあればこの場に限らずお知らせください。生徒たちの成長のために今後ともよろしくお願いいたします。

5 諸連絡

次回は12月に実施の予定。日程調整をします。